

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.11.25 No. 91 連絡先 FAX 042-555-1911



横田基地で「サムライ・サージ」訓練 C130輸送機 7機同時発進！



羽村上空を7機編隊で飛行するC130

「いつもは1機、2機なのに、5機飛んでいて怖くなったわ。」
「いや7機飛んでいた。」そんな話が地元でありました。

11月9日の時事通信の報道によると、米空軍は8日、C130輸送機の運用能力向上訓練を横田基地で4日に実施したと発表。有事の際の特殊作戦や人道支援、救助活動などで同時に多数の空輸任務を要求されても、即応できる能力を確保するのが狙い。

訓練は「サムライ・サージ」と名付けられ、通常は1日1～3機を運用するC130輸送機を7機同時に発進させました。

横田基地のC130輸送機は太平洋空軍の中で、前線に兵員輸送や物資補給を行う唯一の戦術空輸部隊。訓練は、日本の首都に位置する同基地がアジア・太平洋地域の米軍の輸送中継拠点であることを改めて示しました。

空軍は「我々は日本から太平洋地域のあらゆる場所に輸送機を展開させる。訓練は、利用可能な輸送機をすべて運用できるように乗組員と地上要員の能力を試す」としています。

意見広告「普天間基地の撤去を 新しい基地はつくらせない」に大きな反響



11月10日、朝日新聞に全面意見広告が掲載されました。「横田基地の撤去を求める西多摩の会」も意見広告に賛同しました。以下は寄せられた意見です。

「朝日新聞を読んでいて、この意見広告を見たとき、とても心の奥がギュッと締めつけられるような気持ちになり、お手紙を書こうと思いました。最近、9月に沖縄へ修学旅行に行ってきました。

普天間、辺野古、ガマ、ひめゆりなどいろんなところへ行きました。沖縄大へり墜落事件があったとき、学生だった方のお話も聞かせていただきました。事実を知れば知るほど、体中から怒りと今まで知らずに生きてきた自分が本当に情けなくなっていました。

(中略)新聞を読んで、私も何か行動をしたいと強く思いました。もっとたくさん学び、真理をずっと探し続けて生きたいです。そんな

な思いになるきっかけくださり、本当にありがとうございました。(高校3年生 女性)」

「凄いものだと思います。全面的に賛意を表します。『日本のどこにも米軍基地はいらない』が決定打だと思います。沖縄県内で基地を押し付けあってはダメです。米軍基地はどこにも要らないのです。」「沖縄の皆さんのお立場が、とてもよくわかる全面広告でした。」

以上のような応援メッセージが多数だったそうです。が、ほかに次のような意見も。

「自衛隊だけで日本を守れないと思うので、米軍は必要だと思う。」「日本は、アメリカに守ってもらっているのだから仕方ない。」「普天間は人口密集地にあり変更する必要あると思いますが、沖縄以外に転地が困難であれば、人の少ない辺野古は良い。」広告で議論沸騰です。

最新鋭ステルス戦闘機 F22 アラスカで 訓練中に墜落 (No. 91 の裏面)

報道によると、米空軍の最新鋭ステルス戦闘機 F22 (1 人乗り) が訓練を終えて基地に戻る途中の 16 日に通信が途絶え、搜索の結果、アラスカ州で機体の残がいらしきものを発見したと空軍は 17 日に発表しました。墜落した F22 は、アラスカ州のエルメンドルフ・リチャードソン基地所属。F22 戦闘機はレーダーに見つからないステルス性なので搜索は難しかったですでしょう。搜索ヘリが 17 日にアンカレジの北約 160 km で残がいらしきものを発見しました。パイロットは見つかっていないそうです。



ステルス戦闘機は、2009 年 3 月 25 日、テスト飛行中にカリフォルニア州南部の砂漠に墜落し、米航空宇宙機器大手ロッキード・マーチン所属のパイロットが死亡しています。

2009 年 1 月から嘉手納基地に F 22 戦闘機 12 機が配備された沖縄では、2009 年 3 月 29 日、「琉球新報」が「F22 墜落 “空飛ぶ凶器” の飛来中止を」と、社説に載せています。

F 22 戦闘機は横田基地に 2009 年 8 月の横田基地友好祭に初展示されました。2010 年も展示のため飛来しました。友好祭が終わっても帰らずどうしたのかと話題になりましたが、故障が見つかり、必要な部品を取り寄せるのに時間がかかったと言うことでした。

C17 大型輸送機の墜落、F22 ステルス戦闘機の墜落、横田基地でも人ごとではありません。

2004 年 12 月、米ネバダ州の空軍基地で F22 がテスト・評価期間中に墜落事故 (パイロットは無事脱出) を起こし、2 週間の飛行停止措置がとられました。“空飛ぶ凶器” は飛行停止を!

核を求めた日本・秘密外交を追跡 極秘報告書 10月3日 NHK放映 話題に (3)

村田氏の話

内閣調査室の報告はプルトニウムの純度を2-3倍上げる技術開発、当時の試算は1年間で100kgのプルトニウムは生産される。これで長崎型原爆は10発以上の核兵器を持てると極めて具体的な内容だった。しかし、核保有には多くの困難があると結論を出した。核保有は米国や周辺国との関係悪化、国内の強い反核感情・安保以上の大騒ぎが起き内閣の一つや二つはが飛んでしまう。しかし、核開発はやって出来ないことはなかった。外交・軍事は裏があることを国民は知るべきだ。国民に核保有検討を公表するとの考えは全くなかった。

NHKナレーション 核保有は国のあり方に関することであるが「核保有の検討がなされたこと」が40年以上も埋もれたままになっていた。

「日本の動き」の解説

1967年、佐藤栄作首相は訪米シジョンソン大統領と会談した。この会議録がある。このなかで「日本に対するあらゆる攻撃、核攻撃からアメリカは日本を守ることを約束する。日本が安全のために核を持たない事がはっきりしているからアメリカの核兵器で日本を守る」ことを確認した。

その2ヶ月後、佐藤首相は国会で「非核三原則」を演説し、これを日本の国是とした。

1974年12月、佐藤首相は「非核三原則」をつくり平和に貢献したとして、ノーベル平和賞を受賞した。この受賞演説の原稿が残っているが、当初「世界各国は日本を見習って非核三原則をつくらう」とあった。が、これは読まれることはなかった。その原因は佐藤首相の日記に手がかりがある。受賞6日前に来日したキッシンジャー大統領補佐官に会っている。ここで日本側はオスロ演説の内容を打診した。これに対してキッシンジャー氏は不快感を示す。そして「各国に非核三原則を」は演説されなかった。このことは「核の傘」の日本の国際的出来事であった。(続く)